



ルータの設置

この章では、機器シェルフ、台上、または装置ラックへの Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォームの取り付け手順を説明します。

- [取り付け手順 \(1 ページ\)](#)
- [設置のガイドライン \(2 ページ\)](#)
- [スタンドアロン機器シェルフへのルータの設置 \(3 ページ\)](#)
- [ラックへの設置のガイドライン \(3 ページ\)](#)
- [前面ラックマウントブラケットの取り付け \(6 ページ\)](#)
- [背面ラックマウントブラケットの取り付け \(7 ページ\)](#)
- [ラックへのルータの取り付け \(8 ページ\)](#)
- [ケーブル管理ブラケットの取り付け \(13 ページ\)](#)
- [シャーシアース接続部 \(15 ページ\)](#)
- [ケーブルの接続 \(16 ページ\)](#)

取り付け手順



警告 安全上の重要な注意事項

この警告マークは「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

SAVE THESE INSTRUCTIONS



(注) 安全上の重要な注意事項

光ファイバケーブルまたはコネクタから、目に見えないレーザー光が放射されている可能性があります。光学機器で見ないでください。ある種の光学機器（ルーペ、拡大鏡、顕微鏡など）を使用し、100 mm 以内の距離でレーザー出力を見ると、目を傷めるおそれがあります。



(注) 安全上の重要な注意事項

プラグブル型の光モジュールは、IEC 60825-1 Ed に準拠しています。IEC 60825-1 Ed への準拠に関する例外の有無にかかわらず、3 および 21 CFR 1040.10 と 1040.11。3 は 2019 年 5 月 8 日付の Laser Notice No. 56 の記載のとおりです。



(注) シャーシを開梱し、新しい機器の現場での要件をすべて確認した後に取り付けを行ってください。

設置のガイドライン

シャーシは、設置する場所に前もって準備しておく必要があります。シャーシの設置場所を決定していない場合は、以下の点に留意してください。

- 卓上への設置では、シャーシの前面と背面にある給排気口用スペースとして、C8500-12X4QC および C8500-12X では 3 インチ (7.62 cm) 以上、C8500-20X6C では 5.25 インチ (13.335 または 13.34 cm) 以上が必要です。Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォームには、垂直方向に 1.75 インチ (4.45 cm) 以上のラックユニットスペースが必要です。ラックにシャーシを設置する前に、設置を予定しているラック位置を測定してください。
- シャーシは床から離して設置する必要があります。床に溜まった埃が冷却ファンによってルータ内部に吸い込まれます。ルータが埃を過度に吸い込むと、過熱状態およびコンポーネント故障の原因になります。
- FRU の設置や交換、またはネットワークケーブルや機器へアクセスするために、C8500-12X4QC および C8500-12X シャーシでは前後に約 19 インチ (48.3 cm)、C8500-20X6C シャーシでは前面に 19 インチ (48.3 cm)、背面に 12 インチのスペースを確保する必要があります。
- シャーシの前後に、冷気の吸気口と排気口のための空間をそれぞれ 3 インチ以上確保します。シャーシを装置が過密なラックに配置したり、別の機器ラックに近接した場所に配置したりしないでください。他の機器から排出された高温の空気が吸気口に入り、ルータ内部が高温になるおそれがあります。

- シャーシには適切な換気が必要です。換気が十分に行われないキャビネットに設置しないでください。
- ケーブル管理ブラケットをシャーシの前面に取り付ける場合は、ブラケットを用意しておきます。
- ルータのシャーシを適切にアース接続するようにしてください（「[シャーシのアース接続](#)」のセクションを参照してください）。

スタンドアロン機器シェルフへのルータの設置

手順

ステップ1 機器シェルフまたはプラットフォーム、およびその周囲の埃やゴミを取り除きます。

ステップ2 シャーシを機器シェルフの上に置きます。

(注) ラックシェルフに Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォームを設置する場合は、ステップ3～9は任意です。ケーブル管理ブラケットを取り付ける前に、シャーシのラックマウントブラケットを取り付ける必要があります。

ステップ3 前面ラックマウントブラケットを取り付けます。シャーシの前面のネジ穴（通気穴の横の最初の穴）の位置を確認し、シャーシに付属している黒いネジのパッケージを使用します。

ステップ4 前面ラックマウントブラケットをシャーシの一方の側面に合わせます。

ステップ5 ネジを差し込み、締めます。

ステップ6 シャーシの反対側面についても、ステップ3～5を繰り返します。すべてのネジを使用してラックマウントブラケットをシャーシに固定します。

ステップ7 シャーシに付属している2つのケーブル管理ブラケットとネジを用意します。

ステップ8 シャーシに取り付けられた左右のラックマウントブラケットに、ケーブル管理ブラケットをネジ留めします。ケーブル管理ブラケットをそれぞれ2個のネジで留めます。4本のネジのパッケージから1本を使用します。

(注) ケーブル管理ブラケットのU字フックの開放側が外向きになるようにして、ケーブル管理ブラケットをシャーシに取り付けてください。

ステップ9 ネジがすべてしっかり締まっていることを確認します。

ラックへの設置のガイドライン

Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォームは、次のタイプのラックに設置できません。

- 19 インチまたは 23 インチの 2 支柱ラック。内側の寸法（2 本の支柱またはレールの内側の間隔）は 19 インチ（48.26 cm）以上必要です。シャーシ内の通気は前面から背面に向かって流れます。
- 19 インチの 4 支柱ラック。内側の寸法（2 本の支柱またはレールの内側の間隔）は 19 インチ（48.26 cm）以上必要です。シャーシ内の通気は前面から背面に向かって流れます。

C8500-12X4QC および C8500-12X の設置では前面または背面のいずれかのラックマウントブラケットを使用して設置できますが、C8500-20X6C では前面と背面の両方のラックマウントブラケットを使用して設置する必要があります。

ラック取り付けを計画するとき、次のガイドラインに留意する必要があります。

- Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォームには、垂直方向に 1.75 インチ（4.45 cm）以上のラックユニットスペースが必要です。Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォームには、垂直方向に 3.5 インチ（8.9 cm）以上のラックユニットスペースが必要です。ラックにシャーシを設置する前に、設置を予定しているラック位置を測定してください。
- ラックを使用する前に、ラック設置の妨げとなる障害物（電源コードなど）がないか確認してください。電源コードがラック設置の障害になっている場合、シャーシを取り付ける前に電源コードを一旦外し、シャーシを取り付けた後に再度接続します。
- ラックの周りにメンテナンスに必要な空間を確保します。ラックが移動できる場合、通常の動作時は壁やキャビネットの近くに設置しておき、メンテナンス（カードの取り付け/取り外し、ケーブルの接続、コンポーネントの交換/アップグレードなど）の際に手前に引き出すことができます。移動できない場合、FRU の取り外しができるように 19 インチ（48.3 cm）の空間を確保しておいてください。
- シャーシの前後に、冷気の吸気口と排気口のための空間をそれぞれ 3 インチ以上確保します。シャーシを装置が過密なラックに配置したり、別の機器ラックに近接した場所に配置したりしないでください。他の機器から排出された高温の空気が吸気口に入り、ルータ内部が高温になるおそれがあります。



注意 シャーシが非常に高温になる危険があるため、Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォームは通気や空調が不十分な場所に設置しないでください。



注意 ラック マウント ブラケット ネジに推奨されているトルクは 8 インチポンドです。

- ラックが転倒しないように重心を低く保つため、重い機器は必ずラックの下部に設置します。
- Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォームに付属したケーブル管理ブラケットを使用してケーブルをまとめ、カードやプロセッサに接触しないようにします。ラックに

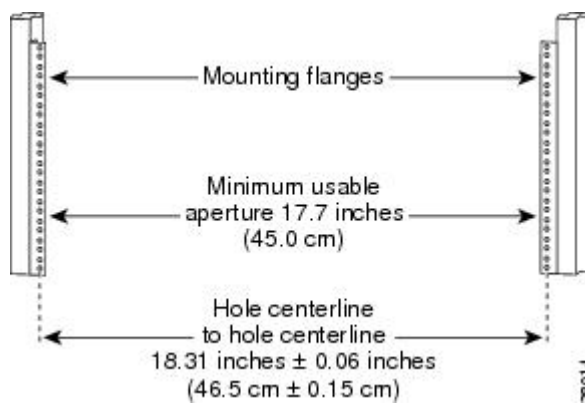
すでに設置されている他の機器のケーブルがカードへのアクセスの妨げになったり、機器のメンテナンスやアップグレードのために無関係なケーブルを外す必要がないようにしてください。

- ルータのシャーシを適切にアース接続します。

ラック寸法の確認

シャーシの取り付けを開始する前に、機器ラックの垂直設置フランジ（レール）間の距離を測定し、ラックが下図に示す測定値の要件を満たしていることを確認します。

図 1: 装置ラックの寸法の確認



手順

ステップ 1 左と右の設置レールの穴の中心間距離を測定します。

この距離は 18.31 インチ \pm 0.06 インチ (46.5 cm \pm 0.15 cm) であることが必要です。

(注) ラックの支柱が平行であることを確認するため、機器ラックの下部、中央部、上部で左右の穴の中心間距離を測定してください。

ステップ 2 機器ラックの左前面および右前面の設置フランジ内側どうしの距離を測定します。

幅が 17.25 インチ (43.8 cm) のシャーシを収容してラックの設置支柱の間に収めるには、少なくとも 17.7 インチ (45 cm) の距離が必要です。

前面ラックマウントブラケットの取り付け

始める前に

ラックにシャーシを取り付ける前に、シャーシの両側面にラックマウントブラケットを取り付ける必要があります。

ラックのどの位置にシャーシを取り付けるかを決めます。ラックに複数のシャーシを設置する場合、ラックの下部または中央から順に設置してください。次の図は、シャーシに取り付けられたブラケットを示します。使用するブラケットの穴によっては、シャーシがラックからはみ出すことがあります。



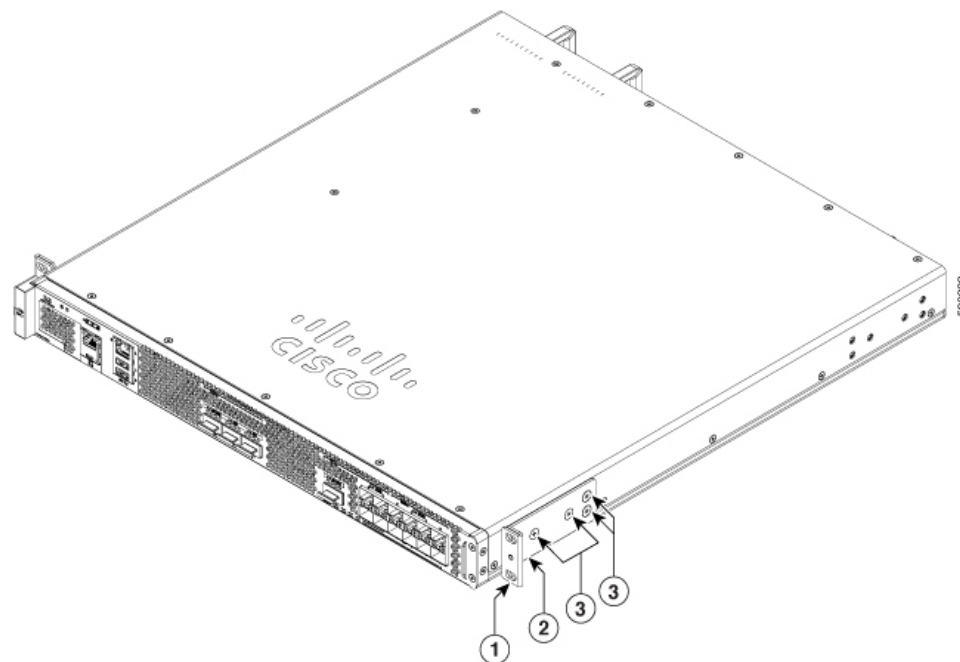
(注) シャーシへのケーブル管理ブラケットの取り付けは、シャーシのラックマウントブラケットをシャーシに取り付けてシャーシをラックに設置した後に行ってください。

手順

ステップ1 シャーシの側面にあるネジ穴の位置を確認します。前面ラックマウントブラケットは、ラック取り付け部とその穴がシャーシ前面側を向くように取り付けます。

次の図に、Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォームの前面ラックマウントブラケットの取り付け位置を示します。

図 2: Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォームへの前面ラックマウントブラケットの取り付け



- ステップ2** 前面ラックマウントブラケットの最も上の穴と、シャーシ側面の通気穴の隣にある穴の最も上のものを合わせます。
- ステップ3** 一方に黒いネジを差し込み、締めます。
- ステップ4** シャーシの反対側面についても、ステップ1～3を繰り返します。黒いネジを使用してラックマウントブラケットをシャーシに固定してください。

背面ラックマウント ブラケットの取り付け

始める前に



(注) シャーシを2支柱ラックに取り付ける場合は、この手順は不要です。

4支柱ラックにシャーシを取り付ける前に、シャーシの両側面にラックマウントブラケットを取り付ける必要があります。

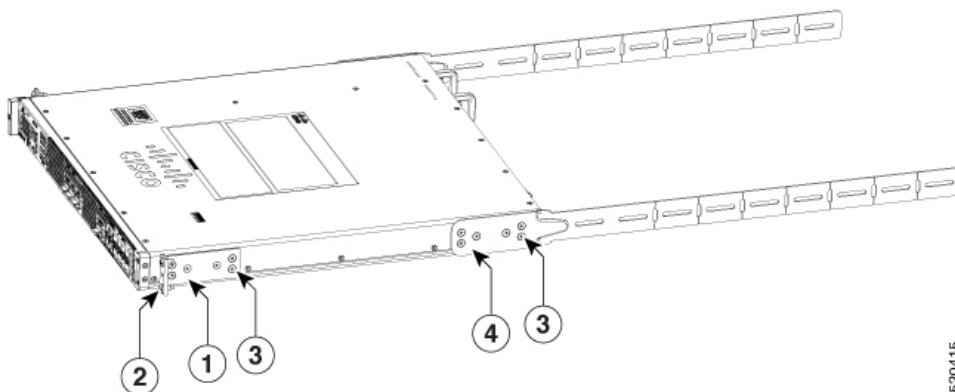
ラックのどの位置にシャーシを取り付けるかを決めます。ラックに複数のシャーシを設置する場合、ラックの下部または中央から順に設置してください。次の図は、シャーシに取り付けられたブラケットを示します。

手順

- ステップ1** シャーシの側面にあるネジ穴の位置を確認します。背面ラックマウントブラケットは、ラック取り付け部とその穴がシャーシ背面側を向くように取り付けます。

次の図に、Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォームの背面ラックマウントブラケットの取り付け位置を示します。

図 3: Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォームへの背面ラックマウントブラケットの取り付け



- ステップ2** 背面ラックマウント ブラケットをシャーシに合わせます。

ステップ3 一方に黒いネジを差し込みます。ネジは完全に締めないでください。

背面のブラケットの穴には位置を合わせるための溝があります。シャーシを4支柱ラックに取り付けるまで、ネジは完全に締めないでください。

ステップ4 シャーシの反対側面についても、ステップ1～3を繰り返します。黒いネジを使用してラックマウントブラケットをシャーシに固定してください。

ラックへのルータの取り付け

シャーシにラックマウントブラケットを取り付けたら、付属ネジを使用してラックの2つの支柱または取り付け板にラックマウントブラケットを固定して、シャーシを取り付けます。ラックマウントブラケットでシャーシ全体の重量を支えるため、必ずすべてのネジを使用して、シャーシのラックマウントブラケットをラック支柱に固定してください。

2本支柱ラックへの設置



警告 ラックへのユニットの設置や、ラック内のユニットの保守作業を行う場合は、負傷事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

- ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
- ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。
- ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

Cisco C8500 シリーズ Catalyst エッジルータは、19 インチまたは 23 インチの 2 支柱ラックに設置することができます。ルータとその上下の装置との間に、1 インチまたは 2 インチ (2.54 cm または 5.08 cm) 以上のスペースを確保してください。

手順

ステップ1 シャーシに設置されたコンポーネントのすべてのネジや固定装置がしっかり固定されていることを確認します。

ステップ2 作業の妨げになるものが通路にないことを確認します。ラックにキャスタが付いている場合、ブレーキがかかっているか、または別の方法でラックが固定されていることを確認してください。

ステップ3 (任意) Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォームをサポートするために、ラックにシェルフを取り付けます。シェルフを使用すると、ラックへシャーシを固定するときに、シャーシを容易に支えることができます。

(注) シェルフを使用する場合、シャーシをシェルフの上に置き、シャーシ下部がシェルフに載っている状態で、取り付け穴とラックの支柱の穴が合うまでシャーシ前面を少し持ち上げます。

ステップ4 シャーシを2本のラック支柱の間に持ち上げます。この作業は2人で行います。

ステップ5 ブラケットのラック取り付け穴とラックの支柱の穴を合わせ、シャーシをラックに取り付けます。

ステップ6 ラックマウントフランジがラックの設置レールとぴったり合うようにシャーシを配置します。

ヒント ステップ7と8で指定されたラックマウントブラケットの取り付け部の穴を使用すると、スペースが確保され、ラック内のシャーシにケーブル管理ブラケットを取り付けやすくなります。

ステップ7 シャーシを機器ラックの設置レールの位置に合わせて、次のステップを実行します。

a) 下側のネジをラックマウントブラケットの下から2番めの穴に差し込み、ドライバを使用してネジをラックレールに締め付けます。

ヒント 取り付けを容易に行うには、1つのネジをシャーシの下部に差し込み、次のネジを対角線上のシャーシの上部に差し込みます。

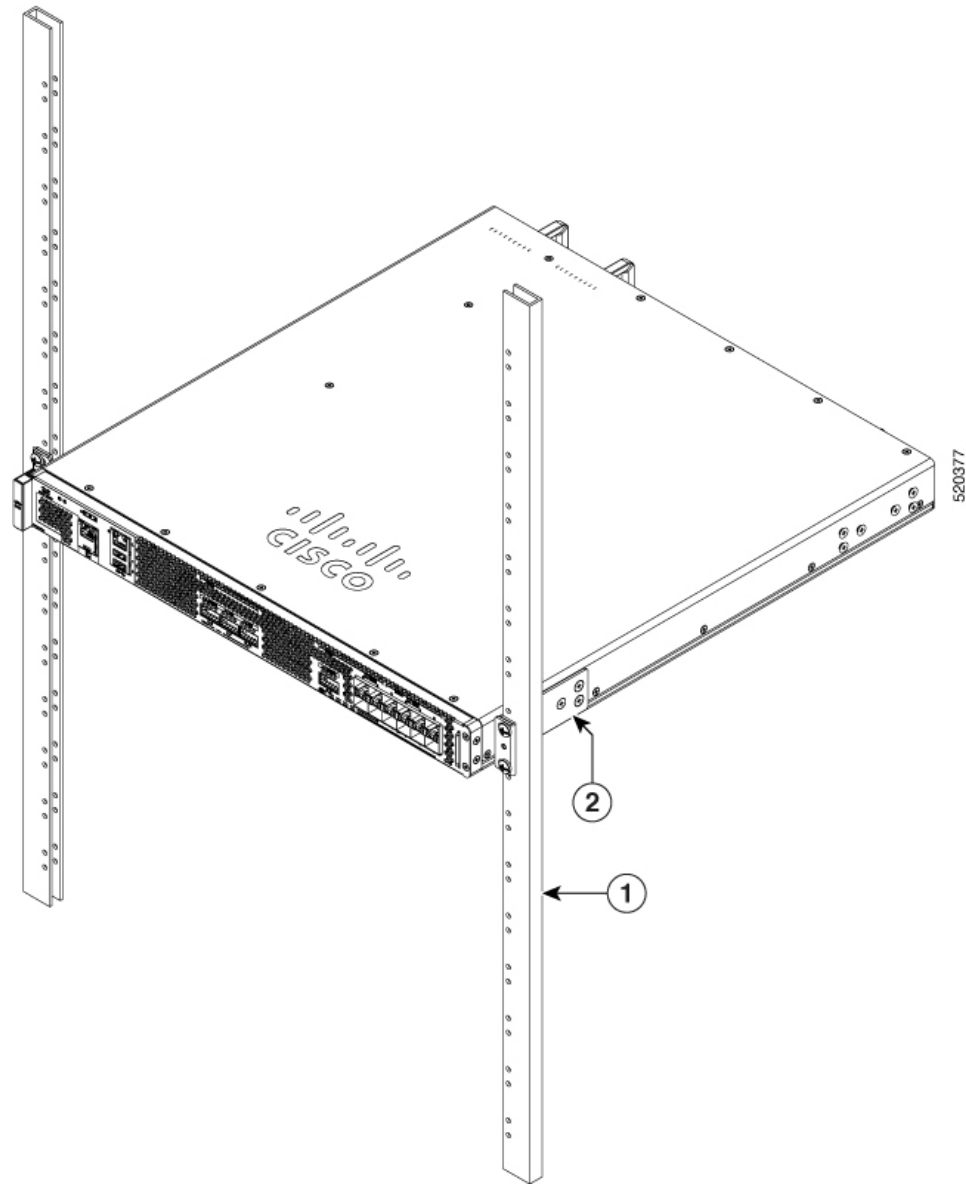
b) 上側のネジをラックマウント取り付け部の上から2番めの穴（下側ネジの対角線上にある穴）に差し込み、ラックレールに締め付けます。

c) 残りのネジでシャーシをラックに固定します。

ステップ8 両側のすべてのネジを締めて、シャーシをラックに固定します。

次の図に、2支柱装置ラックに取り付けられた Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォームを示します。

図 4: 2支柱装置ラックに取り付けられた Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ ルータ



1	ラック レール	2	ラックマウントブラケットのラック取り付け部とそのネジ
---	---------	---	----------------------------

4 支柱ラックへの設置

手順

ステップ1 (任意) C8500-12X4QC、C8500-12X、および C8500-20X6C をサポートするためのシェルフをラックに取り付けます。シェルフを使用すると、ラックへシャーシを固定するときに、シャーシを容易に支えることができます。

(注) シェルフを使用する場合、シャーシをシェルフの上に置き、シャーシ下部がシェルフに載っている状態で、取り付け穴とラックの支柱の穴が合うまでシャーシ前面を少し持ち上げます。

ステップ2 シャーシを2本のラック支柱の間に持ち上げます。この作業は2人で行います。

ステップ3 ラックマウントフランジがラックの設置レールとぴったり合うようにシャーシを配置します。

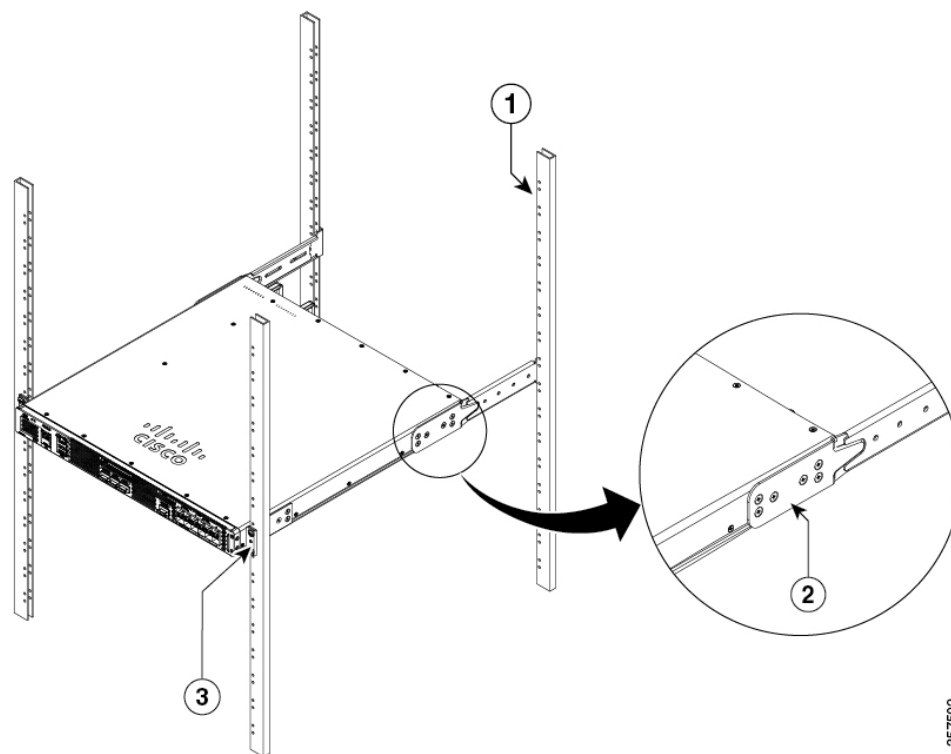
(注) ラックマウントブラケットの下から2番めの穴とラックマウントブラケットの上から2番めの穴を使用してください。こうすることにより、機器ラック内でシャーシにケーブル管理ブラケットを容易に取り付けられます。

ステップ4 シャーシを設置レールの位置に合わせながら、もう一人の作業者がシャーシの両側のラックレールのネジを手で締めます。

ステップ5 シャーシの両側のラックレールの残りのネジも手で締めます。

ステップ6 両側のすべてのネジを締めて、シャーシをラックに固定します。

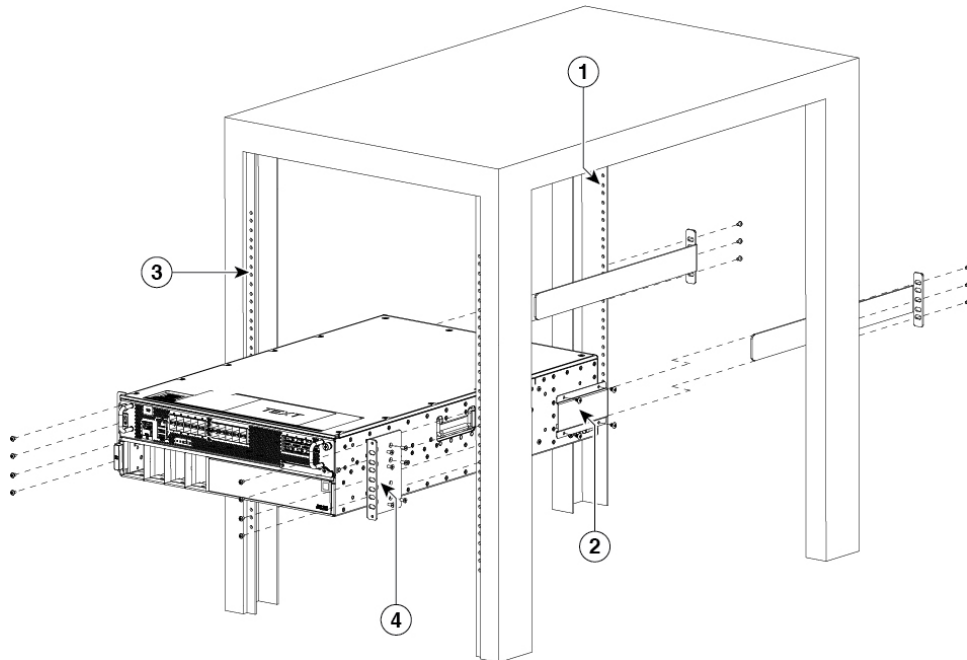
図 5: 前面と背面のラックマウントで 4 支柱ラックに設置した C8500-12X4QC および C8500-12X



357502

1	ラックの背面レール	3	前面ラックマウントブラケットのラック取り付け部とそのネジ
2	背面ラックマウントブラケットのラック取り付け部とそのネジ		

図 6: 前面と背面のラックマウントで 4 支柱ラックに設置した Cisco 8500-20X6C



1	ラックの背面レール	3	ラックの前面レール
2	背面ラックマウントブラケットとネジ	4	前面ラックマウントブラケットとネジ

ステップ 7 水準器を使用して 2 つのブラケットが同じ高さにあることを確認します。または、巻き尺を使用して両方のブラケットがラックレールの上部から同じ距離であることを確認します。

ケーブル管理ブラケットの取り付け

シャーシの各ラックマウントブラケットに取り付けるカスタムケーブル管理ブラケットによって、シャーシの両側で（カードの向きと平行に）ケーブルを管理できます。このブラケットは、ケーブルの取り付けと取り外しが容易に行えるよう、ラックマウントブラケットにネジで固定されます。

Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォームのケーブル管理用金具は、1 つの独立したケーブル管理用 U 字フック字機構と、金具ごとに 2 本のネジを備えています。



(注) ケーブル管理用 U 字フックの開放側が上向きになるように、ケーブル管理ブラケットを C8500-12X4QC または C8500-12X シャーシに取り付けてください。

手順

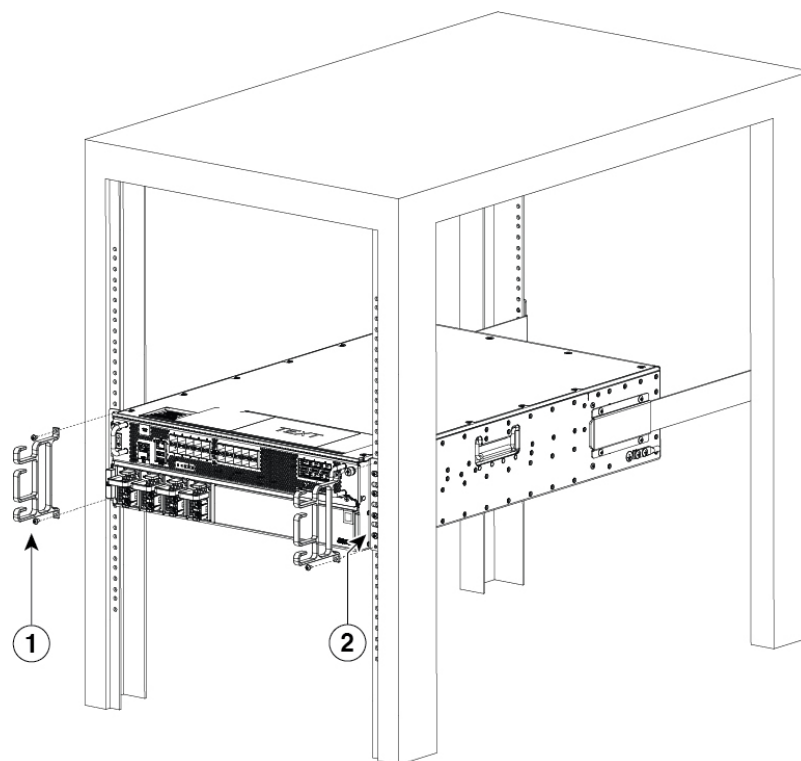
ステップ 1 Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォームの一方のラックマウントブラケットにケーブル管理ブラケットの位置を合わせます。ケーブル管理ブラケットが、シャーシのラックマウントブラケットの一番上の穴の位置にぴったり重なります。

ステップ 2 1本のネジをケーブル管理ブラケットの一番上の穴に通して、シャーシのラックマウントブラケットに差し込み、プラス ドライバを使用して締めます。

(注) シャーシに付属している 4 個入りパッケージのネジを使用してください。

次の図に、ケーブル管理ブラケットを Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォームに取り付ける場所を示します。

図 7: ケーブル管理ブラケットの C8500-20X6C への取り付け



1	ケーブル管理ブラケットの前面。
2	前面のラックマウントブラケット。

ステップ 3 ケーブル管理ブラケットの穴にネジを通し、プラスドライバで締めます。

ステップ 4 シャーシの反対側面についても、ステップ 1～3 を繰り返します。

シャーシアース接続部

すべての DC 電源の設置および Telcordia の接地要件への適合が要求されるあらゆる AC 電源の設置では、Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォーム シャーシをアース接続する必要があります。



警告 この装置は、アースさせる必要があります。感電のリスクを軽減するため、絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。

シャーシを電源に接続したり、電源をオンにする前に、シャーシを適切にアース接続してください。Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジプラットフォームには、シャーシアースコネクタが用意されています。シャーシの背面左側にスタッドがあります。



注意 アース線の取り付けと接続は必ず最初に行い、取り外しは最後に行う必要があります。

この手順を開始する前に、推奨の工具と備品を用意してください。

推奨する工具および部品

システムアースをシャーシに接続するには、次の工具、装置、および消耗品が必要です。

- プラス ドライバ
- 3.5 mm マイナス ドライバ (Phoenix # 1205053 または同等の 3.5 mm マイナス ドライバ)
- デュアル端子シャーシアース コンポーネント
- アース線

シャーシのアース接続

手順

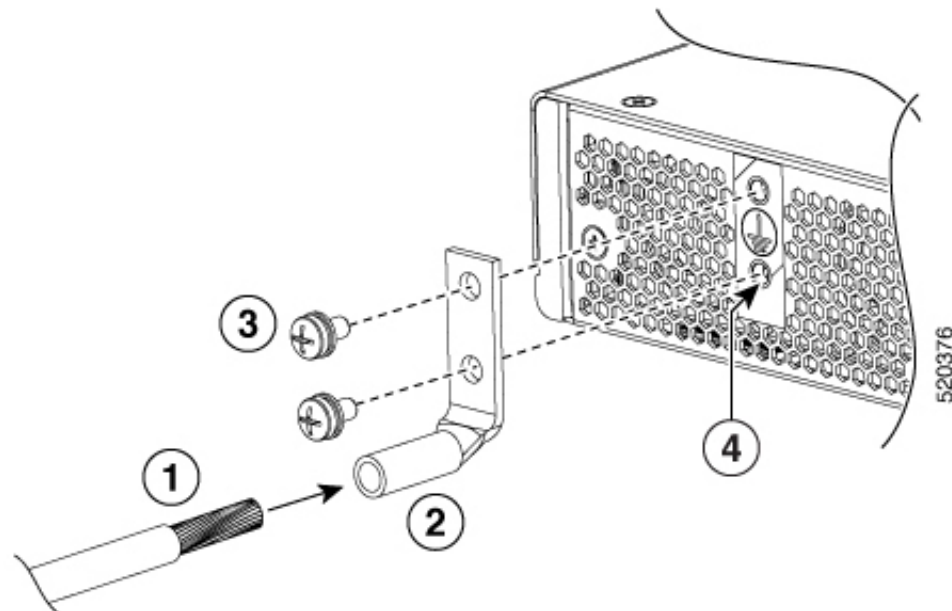
- ステップ 1** ワイヤストリッパを使用して、AWG #6 アース線の一端の被覆を約 0.75 インチ (19.05 mm) 取り除きます。
- ステップ 2** AWG #6 アース線をアース ラグの開放端に差し込みます。
- ステップ 3** 圧着工具を使用して、導線の導線レセプタクルを注意深く圧着します。これは、アース線を確実にレセプタクルに接続するために必要な手順です。

ステップ4 シャーシ側面のシャーシアース コネクタの位置を確認します。

ステップ5 アース ラグの穴に2つのネジを差し込みます。

次の図に、アースラグをシャーシアースコネクタに取り付ける方法を示します。

図 8: C8500-12X4QC および C8500-12X シャーシアースコネクタへのアースラグの取り付け



1	シャーシアース導線	3	アース ネジ
2	アース ラグ	4	シャーシアース コネクタの穴

図 9: C8500-20X6C シャーシアースコネクタへのアースラグの取り付け

1	シャーシアース コネクタの穴	3	アース ネジ
2	アース ラグ		

ステップ6 No.2 のプラス ドライバを使用して、アース ラグがシャーシに固定されるまで、慎重にネジを締めます。ネジを締めすぎないようにしてください。

ステップ7 アース線の反対側の端を設置場所の適切なアース設備に接続し、シャーシが十分にアースされるようにします。

ケーブルの接続

Cisco Catalyst 8500 シリーズ エッジ プラットフォームに外部ケーブルを接続する場合は、次のガイドラインに留意してください。

- 干渉を防止するため、高出力の回線がインターフェイスケーブルと接触しないようにしてください。
- システムの電源を入れる前に、配線の限度（特に距離）を確認してください。

コンソールポートのケーブル接続

ルータでは、コンソール端末を接続するため、RJ-45 ポートを使用します。ルータには、前面パネルに CON というラベルが貼付された非同期シリアル（EIA/TIA-232）RJ-45 コンソールポートが搭載されています。ルータに付属のコンソール ケーブル キットを使用して、ほとんどのタイプのビデオ端末にこのポートを接続できます。コンソール ケーブル キットに含まれているものは、次のとおりです。

- RJ-45/RJ-45 クロス ケーブル X 1

クロス ケーブルは一方のピン接続が反対側と逆になります。つまり、（一方の）ピン1と（反対側の）ピン8、ピン2とピン7、ピン3とピン6のように接続します。クロス ケーブルは、ケーブルの2つのモジュラ端末を比較することによって識別できます。タブが後ろにくるようにケーブルの端を並べて手に持ちます。左側プラグの外側（左端）のピン（ピン1）に接続されたワイヤと、右側プラグの外側（右端）のピン（ピン8）に接続されたワイヤが同じ色になります。

コンソールポートは非同期シリアルポートなので、このポートに接続するデバイスは、非同期伝送に対応できなければなりません。RJ-45 コンソールポートのボーレートは、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600、115200 bps です。

端末または PC を使用してルータのコンソールインターフェイスに接続する前に、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 コンソール ポートに端末を接続する前に、シャーシのコンソール ポートに合わせて、端末を 9600 ボー、8 データ ビット、パリティなし、1 ストップ ビット（9600 8N1）に設定します。

ステップ 2 RJ-45 ケーブルの一方をシリアル RJ-45 ポート（CON）に接続します。

（注） ご使用の端末またはホストの要件に合わせてデフォルト設定を変更する方法については、『Cisco IOS Terminal Services Configuration Guide』を参照してください。

ステップ 3 ルータが正常に動作したあとは、端末を接続解除できます。

USB 3.0 コンソールインターフェイスへの接続

USB 3.0 インターフェイスは、USB タイプ A to 5 ピンマイクロ USB タイプ B ケーブルを使用して、PC の USB コネクタに直接接続します。USB 3.0 インターフェイスはフルスピード（12

Mbps) の動作をサポートしています。インターフェイスはハードウェアフロー制御をサポートしていません。



- (注)
- 必ず適切な終端のシールド USB ケーブルを使用してください。USB シリアル コンソール インターフェイス ケーブルの長さは 3 m 以下にする必要があります。
 - 一度に 1 つのインターフェイスだけを有効にできます。ケーブルを USB 3.0 インターフェイスに接続すると、RJ-45 ポートは非アクティブになります。反対に、USB ケーブルを USB 3.0 インターフェイスから外すと、RJ-45 ポートはアクティブになります。
 - 4 ピンマイクロ USB タイプ B コネクタは、5 ピンマイクロ USB タイプ B コネクタと混同しやすいコネクタです。5 ピンマイクロ USB タイプ B だけがサポートされる点に注意してください。

インターフェイスのデフォルトパラメータは、9600 ボー、8 データビット、パリティなし、および 1 ストップビットです。

Windows 7 より前の Microsoft Windows OS のバージョンで使用する場合、インターフェイスに接続されているすべての PC に Cisco Windows USB Console Driver をインストールする必要があります。ドライバがインストールされていない場合、簡単なインストールプロセスが案内されます。

Cisco Windows USB Console Driver を使用すると、Windows HyperTerminal の操作に影響を与えずに、インターフェイスからの USB ケーブルの着脱を行えます。Mac OS X または Linux の場合、特別なドライバは必要ありません。

管理イーサネットポートのケーブル接続



注意 クラス A の放射要件を満たすには、接続にシールド付きイーサネット ケーブルを使用する必要があります。

手順

ステップ 1 MGMT ポートにイーサネット RJ-45 ケーブルを差し込みます。

ステップ 2 RJ-45 ケーブルの反対の端を管理デバイスまたはネットワークに接続します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。